

平成30年度岐阜県芸術文化顕彰受賞者

きたがわ えりこ
北川 悦吏子 (脚本家)

- ・岐阜県美濃加茂市出身、早稲田大学卒業後、広告代理店勤務等を経て、平成元年脚本家としてデビュー。テレビドラマの脚本のほか、執筆活動、映画、舞台など活躍の場を広げている。
- ・数々のヒットドラマの脚本を手掛け、出身地である岐阜県を舞台にした作品も多い。本年度は、NHK連続テレビ小説「半分、青い。」において岐阜県の魅力を全国に発信し、地域の活性化や観光振興に貢献した。



たまい ひろこ
玉井 博祐 (能楽師)

- ・重要無形文化財総合認定保持者である日本能楽会に、平成16年に女性で初めて推挙されるなど、女性能楽師の地位確立において先陣を切って活動された。
- ・昭和60年から続く岩村城址薪能や岐阜護国神社鶺鴒能など地域に根差した伝統芸能発表の場に精力的に携わっていることに加え、学校等で能に関する公演や講義を行うなど、能の発展と文化芸術の振興に寄与している。



まるやま こうたろう
丸山 幸太郎 (郷土史家 岐阜女子大学教授)

- ・昭和48年の岐阜県郷土資料研究協議会設立時より常任委員を務め、郷土資料の収集、調査、紹介、保存に指導的な立場で関わる。平成17年からは会長を務めるなど、永年にわたり同協会の発展と充実に尽力している。
- ・岐阜県文化財保護審議会委員、岐阜県古地図収集委員・同鑑定委員、高山陣屋運営協議会会長など県の多くの委員会や市町村の歴史文化関連委員の委嘱を受けるなど、地域文化の振興に貢献している。



平成30年度岐阜県芸術文化奨励受賞者

まつり かぶきほぞんかい いび祭子ども歌舞伎保存会

- ・三百余年の伝統を誇る揖斐祭りに繰り出される曳軸の上で演じられる子ども歌舞伎は、明治時代からはじまり現在まで受け継がれている。
- ・「全国子ども歌舞伎フェスティバル」への出演をきっかけに、平成19年5月に保存会を結成。継続的に、役者の確保、演技力の向上、義太夫の育成等を行うなど、伝統を繋ぐ活動をしている。



たるいひきやまほぞんかい 垂井曳軸保存会

- ・江戸時代から引き継がれてきた垂井曳軸に関する有形無形の文化財を保護し、郷土文化の発展を目的に昭和35年に設立し、これまで、その伝統を引き継いでいる。
- ・垂井曳軸子ども歌舞伎は、県重要有形民俗文化財である3輦の曳軸の上で、祭3日間で10数回も舞台に立ち、素人離れした演技と台詞で多くの観衆を惹きつけている。



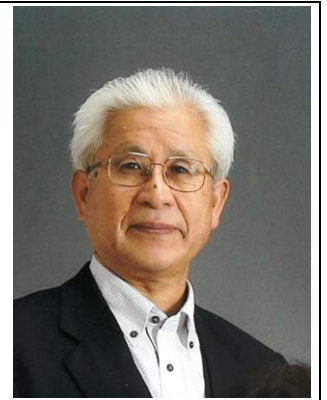
せきおんがくげき かい 関音楽劇の会

- ・関市の歴史や文化を音楽劇により伝えるため、平成24年に設立。児童から高齢者まで幅広い世代により構成され、地域での創作音楽劇公演やコンサートをはじめ、読み聞かせ活動も行っている。
- ・ポルトガル共和国や鹿児島県の種子島において、関市の鍛冶職人に係る鉄砲伝来の創作劇を公演するなど、音楽劇を通じ、地域の歴史文化の伝承と普及に貢献している。



ちはや やすゆき
千早 保之

- ・中津川市苗木遠山史料館資料調査員を平成16年から勤め、「苗木城 墓から見た歴史」、「苗木城解体の時代」、「遠山友政公記」など、多くの著作・監修を行い、苗木城と苗木の歴史に関する研究を発表し続けている。
- ・苗木城を中心とした苗木の歴史だけでなくその魅力を幅広く発信するため、地域での講演活動のほかボランティア育成にも尽力するなど地域振興にも貢献している。



はらだ まさのり
原田 正則

- ・障がい者支援施設に通所し、作品を制作する仕事をしながら、身近な風景、華やかな祭、地元高山にちなんだ風物詩などを描き続けて、今年で30年目になる。インクやペン、マーカーで描かれる作品は、視点や技法がオリジナリティに溢れ、その技量には障がいがあることを感じさせないものがある。
- ・これまでに県内各地で多数の個展を開催するとともに、数多くのコンクールで入賞するなど、障がい者芸術の普及に貢献している。

